



○丸山 全体討議をしたいと思います。池田先生にまとめをお任せしたいと思います。お願いします。

○池田 では、時間もありませんが、登壇なさった方どなたにでも結構ですので、ぜひ聞いてみたいということがある方は挙手をして、自由にお聞きください。野尻さん、経験者として、質問でも感想でも。

○丸山 良い線ですね。TAの一人目、一年目。

○野尻 発表ありがとうございました。大変懐かしいというのがまず第一に来てしまうんですけども。最後に三浦さんの発表であった、先生方から学べること、先生方の小ワザを盗むというところは

○三浦 学ばせて頂く（笑）

○野尻 学ばせて頂くっていうところは、本当に私も、先週スロベニアから帰ってまいりまして、一年間長期実習してきましたが、そこで活かされたことがあって、あの時谷先生がこういうワザを使っていた、というのは、本当に自分のカードとして貯蓄されていたことでした。というのが、共感いたしました。本当学べることが多いTAの業務だと思います。

○池田 先生方、学生さん、どなたでも。

○**金庭** 藤田先生と谷先生に伺いたいんですけども、履修学生のTAに対する評価はどんな風が変わっていったと思いますか。最初は恐らく、知らないお姉ちゃんが来ると感じる感じだったと思うんですけど、それがどんな風が変わっていったかもちょっと教えて頂ければと思います。

○**藤田** はい。学期末にですね、学生と個別のインタビューする機会があったんですけども、その時にTAさんについてどう思いますかというの聞いてみました。その時の感じですと、今回AもBもそれほどクラスサイズが大きくなかったです。こちらが7名、こちらが5名ですね。その中で、教員役、教員とTAさんが二人いるわけですから、とても贅沢だということを言っている人が多かった。また、三浦さん自身も言っていましたが、目標にちゃんとできてましたよ、先生よりも質問しやすいと。とても相談しやすいというのがとてもよかったというので、ほとんどが肯定的な感じで。逆にそんなに豪華でいいのかしらと恐縮するくらいの学生もいました。

○**谷** 私の方はそういったインタビューする機会とかはないんですけども、TAさんと履修学生さんの様子をずっと見てみると、やっぱりどんどん近くなっていくのが分かるんですね。気軽に作業しても呼んで聞けるというところで、とても助かっているようだなという風には、見ていて思います。全体にとってもプラスに受け止めてくれていて。もちろんTAさんですから、失敗することもあるんですね。でもみんな本当に温かく見守ってくれて、三浦さんが発表終わった後みんなこんな感じ（笑）そうそう、拍手が起こる（笑）というような関係性ができて、もしTAさんが失敗してもフォローするってことを学生も分かっているので、いいんじゃないかなと思います。

○**池田** ありがとうございます。日本語教室に参加してくれている学部生も来てはいるんですが、日本語教室は実際に自分たちが、先生がいないうちに、自分たちが中心になって日本語を教えたりすると思うんですけど、それを通して自分が考えてみたりしたことと、今日発表してくれたTAを経験した学生が感じたことと比べて、何か思うところがありますか。どちらでも。

○**立教日本語教室参加学生1** はい。あまりまとまっていなくてもかもしれませんが、いらっしゃる方の層が、わりと違うと思うんですね。ここで授業を履修されてるのはたぶん学生、20代とかの方が多くて、日本語教室にいらっしゃるのは、地域で働いていらしゃったりとかする方なので、私たちよりずっと大人という方々

なので、少し環境は違うと思うんですけども。発表にあった、私もいつも、学習者が間違えたりしたときも訂正とかについてははすごく考えることが多いので、コミュニケーションのための日本語の勉強と、きちんと正しい日本語の勉強と、というのははすごく教える立場に立つと考えることがすごく多くなったことなので、今発表を伺って、まだ答えはすぐ出ませんけれども、教室の中で学んでいる方たちの訂正と、またそこで学習してる方たちに対しての訂正というのは、違うかなと少し思いながら伺っていました。

○**立教日本語教室参加学生 2** 私も、やっぱり日本語教室に来る方は働いていて、年上の人もいますんですけど、私が最初の時に何回か来てくれてる人は、日本の大学院に行きたいからっていう人で、その若者の言葉とかについて、私たち自身を生教材とか、若者として答えやすいなという、若者だからこそその話し方の点は似ているのかなと。世代を代表して話すことができるというのはあるなと思ったのと、あとは教室だとマンツーマンの時が多いので、訂正の仕方とかは違ってくるかなと。

○**池田** なるほどね。ありがとうございました。栗田先生、学部で実習をご担当して、いらっしゃって、実習生と TA を (笑)

○**丸山** そうそうそうそう。両方ご覧になって (笑)

○**栗田** はい。実習の方は、さっき継続的に学習者と触れあえいえるというか、それがもう決定的に違うなと思って伺いました。実習の時にも確かに色々準備をしてやるんですが、とにかく単発でしか、そこでやって失敗したらもう終わりというところもありますし、それが継続的に自分の力も色々試して試行錯誤ができるというのはものすごい機会だと思いますし、あとは先生の小ワザを盗むというのが、本当にありえないくらい。

○**池田** 学ぶだったね (笑)。もうだめだ、刷り込まれてる (笑)

○**栗田** 学ぶ (笑)。先生の小ワザを学ぶ、先生から学べることとあったけれども、本当に贅沢な機会という、私が言ってしまうといいのか分からないんですが、普通、現場に入って他の教師のやり方を見る機会ってお金をいくら払ってもできない、駄目ですってということが大半の中で、一回だけではなくて、何回もその先生のやり方が見られるっていうのは、できれば私も TA として谷先生とか藤田先生の授業に入りたいなと思うくらい、普通はできない経験。実習があるにしても、ある一定の期間だけだと思いますので、そういう機会があるということと、更に

それを自分の研究に取り込めるっていう、すごい立教大学からのスペシャルトリートというか、すごいサービスだなと思いながら。

○丸山 そうなんですよ。

○池田 気づいてほしい。

○栗田 本当に、私も色々先生方の、ずっと新座に行っている時には色々、野尻さんとかにもお目にかかる機会ありましたけれども、こんな贅沢なことが起きていたんだと、今日初めて分かりました。すごく勉強になりました。ありがとうございます。

○池田 非常にありがたいコメントありがとうございます。気づいているかどうか分かりませんが。

○丸山 心に染みましたね。

○池田 やる気があれば、実践研究のしかたも含めて、教歴までつけて送り出してあげようっていう本当に手厚いプログラムですので、ぜひ。

○丸山 このまま伸びて。

○池田 成長するように。宣伝してね。発言なさってない方、何でも。先生いかがですか、せっかくいらしていただいたので。

○神元 先生と同じコメントなんですけれども、私も大学院で実習をさせていただいた、自分が実習した時のことを思い出しまして、立教大学さん実践的で、大学いいなっていうのが素直な感想でした。

○池田 立教いいよって。

○丸山 そうそうそう。

○神元 本当に他の先生を見せて頂く機会は本当に無いんですね。私は個人的に講師として働いているときをお願いして見せて頂いたりはしたんですけども、本当に同じ先生について、一学期間っていうのは本当に無いので、ぜひぜひ研究も含めて頑張ってください。データたくさん集めてください。

○池田 ありがとうございます。平山先生。

○平山 じゃあ、一点だけ質問を、すいません。西内さんに。今日ビリーフの変化という、とても興味深いテーマで、ありがとうございました。最後のところで、教師とTAの場合は、TAを通じることによって、教師と接触してその溝を埋められるっていうお話でしたけれど、じゃあご自身がTAをなさった時に、そのご自身のビリーフの変化に関して、影響を及ぼすようなことを例えば教師から何か

言われたり指導を受けたりですとか、またはその教師の何かを見ることによって、私の今ビリーフが変わったっていう何か実感を持って感じられていることがありますしたら教えてください。

○西内 実感としては、よく自分の気持ちの中で変化があったなと思うのは、先生と履修学生がやり取りをしているときに、自分の中で少し変わるというか、あ、この場面はこういう対応が適切なんだという、自分だったらきっとこういう風に対応してしまうという、自分と比較して考えて変化が起こるといことが多かったように思います。私が TA として入らせて頂いたときにも 16 人学生がおりまして、少し多かったこともあって、私が学生の一人として入ることももちろんあるんですけど、先生が見ていると同時に、私もちらちらと見ている。先生ほどのアドバイスはできないですけど、簡単なことを見るということを見せていただいたことがあって、その時に先生とすれ違う時にこう、あ、こうすればよかったと思いながらすれ違って、前に対応していた学生にごめんなさいと。具体的には、私はすごく文字とかに目がいってしまってたんですけど、この語彙を間違えているからあとで調べる時に大変だと思って、直してしまったんですけど、先生はそこまで口頭でチェックをしているくらいだったり、ということでしょうか。他にもいろいろと言い切れません。

○野尻 高橋先生？

○西内 そうです、高橋雅子先生に。

○池田 でもそこはね、重要ですよ。何がそうさせたのかというところは。とっても私たちも知りたいと思います。

○西内 ありがとうございます。

○平野 ありがとうございます。

○池田 袁さん、何か。感想でも。感想でも何か。

○池田 言語科学にこの秋から入ってくる留学生です。華東師範大学の学生さんです。

○袁 座って話してもいいですか。

○丸山 どうぞ。

○袁 華東師範大学から参りましたばかりの、留学生なんですが、語彙科学の異文化コミュニケーション研究科、言語科学専攻に入らせて頂きます。昨日も池田先生に誘っていただいて今日の貴重な発表会に参加することができました。TA

という言葉が、今日初めてですし、最初は意味が分からないのですが、全部の発表を聞いたらすごく日本語教育に、特に初級レベルの学生にすごく役に立つ存在だと思うようになりました。実は私も先学期、一度華東師範大学で、TA ではないのですが、先輩の学生をして、一年生の日本語の会話という授業の教室に一学期全部参加させて頂きました。でもその時の経験は、TA ほど豊富ではなかったと思います。大体は一年生の皆さんに翻訳機械なことに使われて、自分は日本語教師を目指していますが、やはりそんなに今日発表されていたお二人の先輩のように色々な経験をさせたことができなかったんです。ですけれども、これからがんばって行きたいと思います。

○池田 はい、ありがとうございました。丸山先生の方から。

○丸山 私からですか。私は、中級日本語の最初の年、野尻さんと一緒に授業をやったことをすごく懐かしく思い出しました。翌年 2013 年からは他の先生方にバトンを渡すということをしたんですけれども、その時に TA になる学生には、授業の中で学ぶだけじゃなくて、実践と研究を繋げるということをテーマにしていってほしいということを必ず、野尻さんの時から必ず話していくということをしてきました。先生方にはぜひ TA を育ててくださいということを一言お願いをしておりましたが、今日お話し伺って、こういう形である面、非常におおらかで、そしてあるところを非常にきめ細やかにご指導いただいていたということに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。学生が育っているなということをすごく嬉しく思いながら。盗むとかね（笑）。慌てたりしていたけれど、でも何事も無かったかのような振る舞い（笑）。先生方のご指導あってだなという風に非常に感謝しております。どうもありがとうございました。

○池田 私も、最後にではまとめということなので。中級日本語、ほぼ思いつきで丸山先生が着任する前の年に、立教の助成金をとってやろうという目論みで開発致したコースで、まあうまくいったなあと。上手くいったなというか、本当に私が思いつきで始めるいつものことを、素晴らしい形にしてくださっているのは、本当に立教を支えている講師の先生方であり、兼任の先生方であり、本当に立教には力のある先生方が集まっているなという風に思いました。大学院生もこういういい環境の中で研究と、それから教育を進めていけるわけなので、学会もできたことですし、どんどん発表して実際の現場に出ていけるように、今後も細々と大々的に活動を進めていければなど。

○丸山 ぴりりとね。小さく小粒でも。

○池田 立教らしさを前面に出して、続けていきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。